

平成 24 年度 第 1 回アイヌアートモニュメント設置検討会議 議事録

【日時】平成 24 年 12 月 20 日（木）15 時 30 分～17 時 00 分

【場所】市役所本庁舎 18 階 第一常任委員会会議室

【出席者】

- ・委員：阿部一司委員、北原次郎太委員、中原宏委員、水田順子委員
- ・札幌市職員：阿部大市民生活部長（検討会議座長）
アイヌ施策課長、アイヌ施策課企画担当係長ほか

【会議内容】

1 検討会議について

- ・アイヌアートモニュメントを札幌市が設置するため、この会議を設け、委員からは市の企画提案に対するアドバイザーとして助言や意見を出してもらうこと等、検討会議の目的、役割について、事務局から説明があった。（資料 1 及び 2）

2 事業目的及び事業趣旨

- ・先住民族であるアイヌ民族に対する市民の理解を促進し、アイヌ民族の誇りが尊重されるまちを実現するため、アイヌ民族を象徴するモニュメントを市街地の適切な場所に設置することを事業目的としていることについて、事務局から説明があった。（資料 1）

3 事業の進め方について

- ・事務局から、以下の説明があった。
モニュメント設置検討会議で、市の提案に対して助言や意見を出してもらう。さらに一部の委員には、来年度設置予定の制作グループに指導・助言、監修をしてもらう。また、札幌市のアイヌ施策全般について検証評価等を行うアイヌ施策推進委員会からも意見をもらいながら、事業を進めていく。（資料 1）

4 コンセプトについて

- ・（1）アイヌ民族とアイヌ文化を象徴する記念物を制作・設置、（2）多分化共生とアイヌ民族、アイヌ文化に対する市民・来訪者の理解促進、（3）アイヌ文化に基礎を置きつつも、伝統に限定されないアート表現という 3 つのコンセプトについて、事務局から説明があった。（資料 1）

- ・委員から、設置場所について質問があり、事務局から市中心部での設置について検討している旨回答があった。それに関連して、設置場所の空間とモニュメントとのバランスの重要性、モニュメント周辺の整備の必要性等について意見があった。

- ・委員から、一例としてイクパスイという儀礼具をモチーフにして制作することの意義や具象的なブロンズの人物像等は分かりやすさがあること等について意見があった。また、動物たちは、アイヌ民族にとって大事な神々であることから、できれば、自然とか動物という要素は入れるべきという意見があった。

- ・委員から、これから若い世代がどんどん伸びていくので、未来の方に向かって眺めていくという観点から、ある程度抽象的な要素を入れ、そのモニュメントが見る人に対し、考えさせるところがあってもいい、また、いろいろな解釈が成り立つようなものであれば、いろいろな可能性が広がっていくのではないかという意見があった。

- ・委員から、アイヌ民族はもういないのだという理解の人々がまだ多い状況にあり、アイヌ民族を象徴することが、過去のことではなくて、アイヌ民族は今もいるのであり、これからみんなと一緒に共生していくのだということを分かってもらうことが一番大切であるという意見があった。

5 ヒアリングについて

- ・事務局から、観光振興関係者やアイヌ文化研究者、アーティスト等計6名の予定者にヒアリングを実施したい旨説明があった。

- ・委員から、木彫技術について確かな技術を持ち、現代風の表現も試みている木彫工芸者を加えてはという提案があった。事務局から検討したい旨回答があった。

6 今後のスケジュールについて

- ・事務局から、以下の説明があった。

平成24年度については、第2回目、第3回目の会議でヒアリングを行い、第4回で制作手法、設置場所の検討・整理、制作グループ編成、監修者の選任等の事務局案について、さらなるアドバイスをいただく。

平成25年度については、モニュメントの制作グループを立ち上げる。制作グループの進捗状況を見ていただきながら、何回か会議を開催する。

(資料1)

7 その他

- ・委員から、アイヌ民族の若者の意見をしっかり聞いてもらいたいという意見があった。